

安全を提供する運輸パートナー 株式会社山脇商事

山梨県トラック協会・甲府支部

専門性を強化

株式会社山脇商事は、ガス化学業界の大手、岩谷産業株式会社の委託会社として、平成6年スタートした。本社を置く山梨県中央市と埼玉県行田市、群馬県邑楽郡の営業所を拠点に、首都圏全域と北陸富山県を営業圏内としている。ガス輸送のほかに、ミネラルウォーターの輸送、販売も手がける。

同社が主に扱う窒素ガスは、他の物質と反応を起こさない安定した不活性ガスである。用途は酸化防止や急速冷凍で、金属

表面の酸化皮膜の生成防止、酸素のない空間を満たす環境ガス等として使用されている。供給先は、電子機器の工場や医療関係機関という。

この業務は高圧ガス保安法はもちろん、容器や付属品検査など遵守しなければならない法令や規制も多岐にわたっており専門性が高い。当然、顧客の安全に対するニーズは絶対条件だ。

そこで同社では、ドライバーに国家資格（高圧ガス製造保安責任者）の取得を奨励しており、現在在籍中のドライバーの80%がこの資格を持っている。まさに、プロの集団である。

一般高圧ガス、液化ガスの輸送を手がける株式会社山脇商事は、特殊な輸送品に相応しい安全体制の構築している。仲澤公彦社長に、同社の方針と安全管理の方法、そして効果のあった事例をうかがった。



仲澤公彦代表取締役社長

仲澤公彦社長は、「安全第一で、確実な業務を行うことが基本。いったん事故を起こしたら、取引も信用もいっぺんに失う。常に安全確保にどう取り組んでいくかが最優先の課題」という。

安全体制を構築

同社の安全管理において、核となるのが各セクションをまとめるリーダーである。毎月開催されるリーダー会議の重要案件や連絡事項は、各々がもちかえって1週間以内にグループ会議にかける。すみやかに全従業員に周知させることが大切だ。

社員教育にも、さまざまな方法を取り入れてきた。教材等のアイテムを定期的に変えるなど、工夫をしてきたが「確実に定着させるためには、継続して何度も繰り返すこと。分かって

いること、決まりきったことであっても、根気強く注意喚起することが一番」と強調する。

また、行政の指示、会社の規則だからと言うのも、押しつけと感じて効果が薄い。業務上の規則や安全対策は、他でもなくドライバー自身を守るためのものでもある。そうした認識に至るように心を砕いている。

仕事は私生活の延長であるという考えのもと、私的なことに踏み込んで支援することもある。仕事上の不都合の要因が家庭の問題である場合、部署のリーダーが相談にあたり、具体的に親身なサポートをする。

「どんなことにも原因がある。それを追究して、元から断たないとよくなる。問題が解消されると変わります。『俺が先だ』という運転態度でラフな作業をしていた乗務員にも、『お先にどうぞ』というゆとりが生まれる」。

問題解決に真剣に取り組むことによって、限定的な対策や常

識的な対応では引き出せない成果が得られる事例だ。

原因除去で安全性を向上

使えとみた方法は、積極的に取り入れている。

「やってみてダメなこともあるが、やらないで後悔をしたくない」という社長は、これまで数多くの仕組みや教育法を採用してきた。そのままを導入するのではなく、自社のニーズに合わせてカスタマイズしたものも少なくない。その一つが社員の採用時に行っている心理テストだ。

ももとは営業マン向けの接客用ツールとしてつくられたものだが、それを社内の優良ドライバーに回答してもらって標準モデルに設定。テスト結果が同じタイプになった人を優先採用したという。タイプが偏るマイナスは避けているが、おおむね好結果になっているという。

自社の運転規則もユニーク

だ。事故を検証していくと、事故が起きるときは複数の要因が重なっている。なかでも、バックの時の事故が圧倒的に多い。全走行距離のなかでバックが必要なのはごく一部だけ。「そこで事故が起きるのだから、バックを原則禁止にしました」。

行き過ぎたら一回りして戻ってくることも認めてルール化したところ、事故件数は減少した。

「バックは禁止だから最小限になり、やむなくバックする場合には、これまで以上に慎重になった結果」と社長はいう。

ミスや事故は起きるものということを前提に、起こさないようにする仕組みを作り、定着させること。投入できるコストは限られるが「将来の乗務員確保は深刻。そのためには教育の体制、定年後も働ける体制を確立することが必要」と社長は認識している。

グリーン経営の認証を取得するなど、スキルアップにつながる仕組みの導入には前向きだ。

Company Profile



- ◆所在地：山梨県中央市 山之神流通団地3329-1
- ◆取締役社長：仲澤公彦
- ◆資本金：1,000万円
- ◆組合加入年月：平成21年1月
- ◆種目別共済契約車両数
対人35両、搭傷6両、対物35両



山梨県中央市の同社社屋。



全体が白でクリーンなイメージのボディ。「高圧ガス」のプレートが一層映える。